

新しい青森の観光資源開発

～北海道新幹線開業を見据えた

八戸・新青森を拠点とする観光圏域を考える～

青森県立保健大学 増山道康研究演習

T o u r i s m G r o u p

三浦 千奈

笹森 亜由美

中嶋 優衣

清水端 朱音

佐藤 穂菜美

三瓶 耀子

杉山 優

1 はじめに

(1) 目的

2016年3月に、新青森駅・新函館北斗間の新幹線開業が予定されている。そのため、本州から北海道へのアクセスが非常に便利になり、観光やビジネスの利便性が向上する。但し、そのために青森県が単なる通過点になってしまう恐れもありうる。

反面、新幹線開業は、北海道に向かう途中に、青森県にも立ち寄ってもらう大きなチャンスにもなり得るということである。

青森県には雄大な自然や豊富な食べ物、伝統的な祭りなど様々な魅力のある観光資源がある。青森県を通過点にしないためには、他県民に青森県の良さを伝え、その魅力に気づいてもらうことが重要だと考えた。そこで、私たちは1年を通じた青森県のPRを考え、そこから波及する効果についても考えていくことにした。

ここで、私たちが提案したい青森県での観光構想は以下の通りである。まず青森県のPRをすることによる「観光客の増加」が見込まれる。次に、観光地が活気づき、観光地を始めとした県内の「雇用増大」「定住」が広まっていく。そうなれば「人口減少の克服」がなされ、将来的には「活気のある青森へ」とつながっていく。

(2) 調査対象と方法

私たちは、今回の調査を行っていくにあたって、研究対象を「若者」とした。それは、若者は「これからの未来を担っていく存在であること」、また、「活力や発信力を持っていること」などの理由が挙げられるからである。

調査はまず、青森県の観光に対する若者の意識についてアンケートを実施し、次に、フィールドワークとして、青森県にはどのような観光資源があるのか実際に現地に出向き調査した。

これらの結果をもとに、1年を通じて青森県の魅力をPRし、どの季節も観光に適していることを強調した新しい観光圏域を設定し、その中で既存の祭り・イベントを充実するだけでなく、新しいイベント（たとえば、札幌に匹敵する雪まつりを青森市内で開催する等）を開発し、宿泊施設も充足できるような施策提案を行っていく。

2 研究内容

(1) アンケート調査

私たちは、若者が活力や発信力を持っており、また、これからの未来を担っていく存在であると考えた。このように、活気ある青森を目指していくうえでキーパーソンとなる若者の青森県に対する意識はどのようなものか調査を行い、青森県の長所や短所を把握し研究に活かすという目的で、青森県立保健大学社会福祉学科1～3年生135人を対象にアンケート調査を行った。(質問項目については、資料ア

ンケート調査票を参照。)

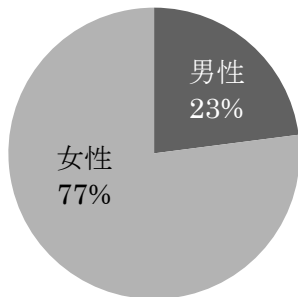
青森県に対する印象について、良い印象を持つ学生からは、自然が豊か、食べ物が美味しい、方言が面白いなどの理由が挙げられた。悪い印象を持っている学生からは、雪が多い、交通の便が悪い、何もないなどの理由が挙げられた。また、青森県に就職してみたいかという問いに対しては、県内出身者は地元貢献したいなどの理由で県内就職を望んでいる学生が多くいた。一方、県外出身者は、就職先が少ない、低賃金などの理由で、青森県外への就職を望んでいる学生が多くいた。

この結果から、青森県は自然が豊かでおいしい食べ物がたくさんあることが長所としてあげられ、自然を活かした観光資源開発を行い、観光地や食を全国にPRすることで観光客増加・雇用増大につながるという最初の仮説が裏付けられた。

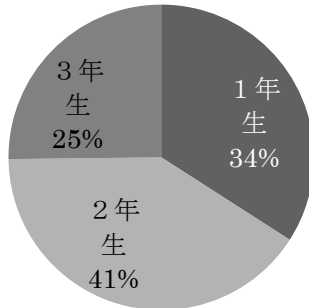
しかし、青森県の短所として冬場の雪の多さが挙げられる。これを逆に利用することで観光資源の開発に結びつけることができると考えた。例えば冬、雪が多いことを利用して、地吹雪体験のようなイベントや、雪を省エネのために利用する方法など青森県だからできることを実行していくとよいのではないかと考える。

次ページのものは、アンケート調査の結果を表・グラフにまとめたものである。

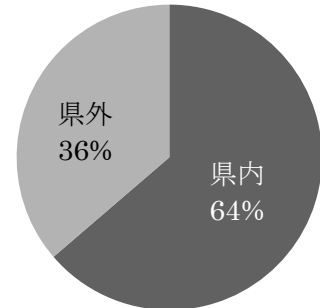
問1 性別



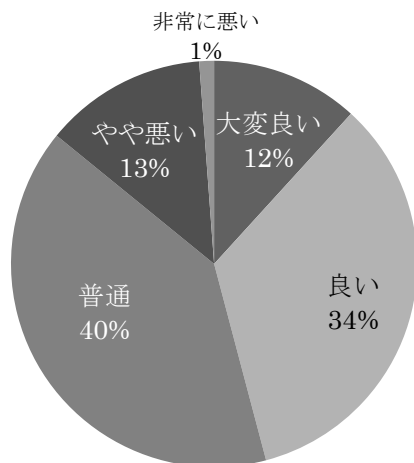
問2 学年



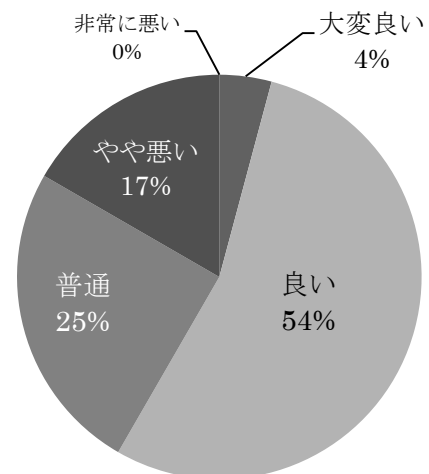
問3 出身地



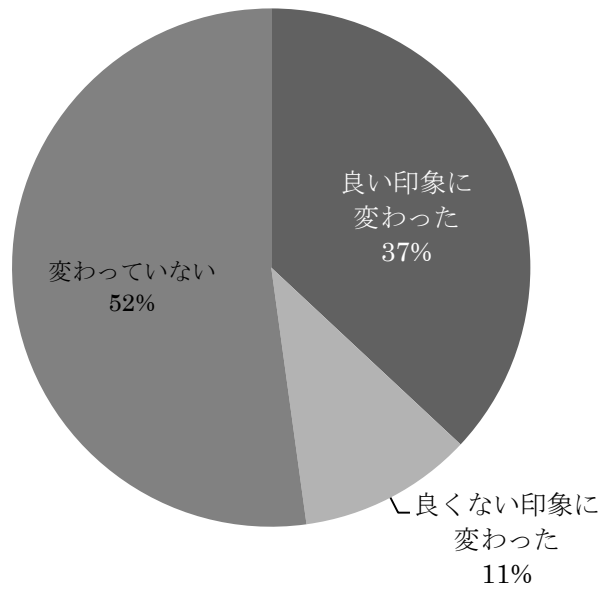
問4-1 青森県に対する印象（県内出身者）



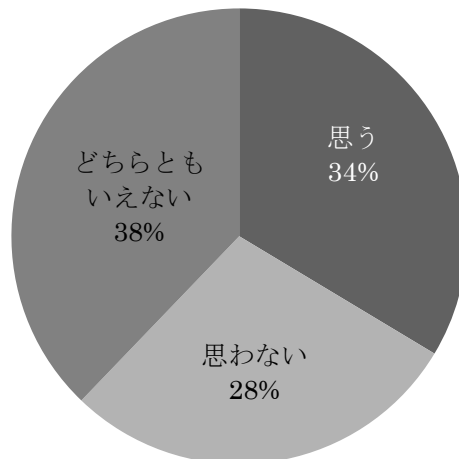
問4-1 青森県に対する印象（県外出身者）



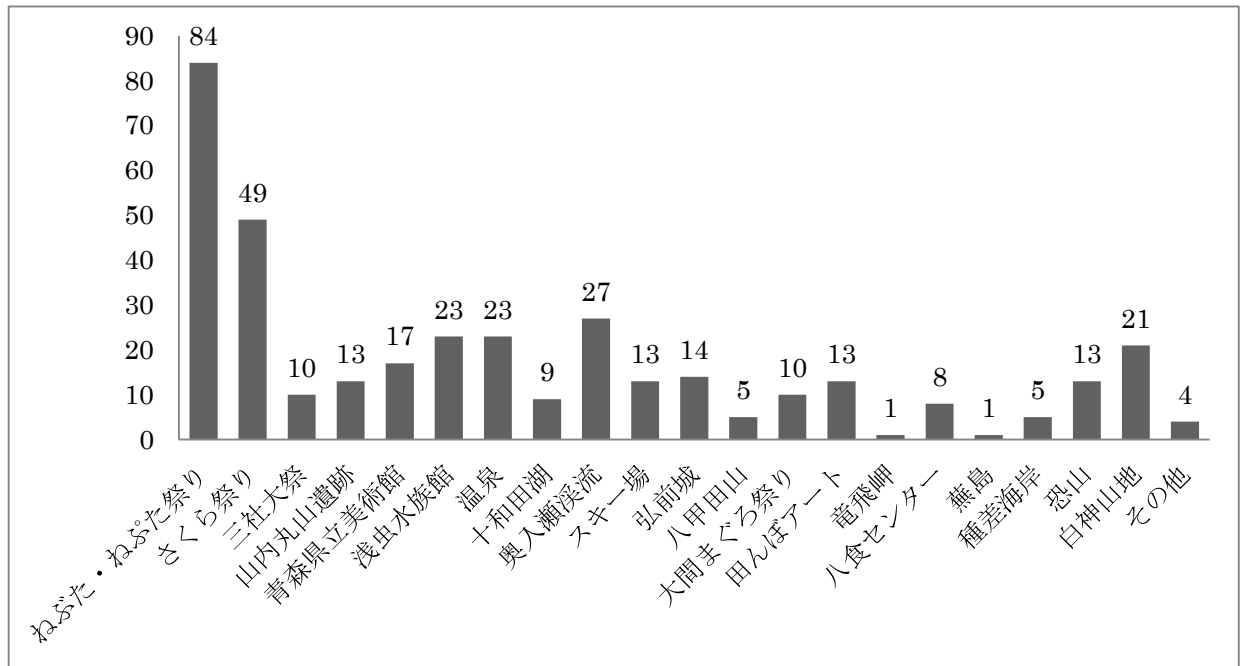
問5-1 印象の変化 (県外出身者対象)



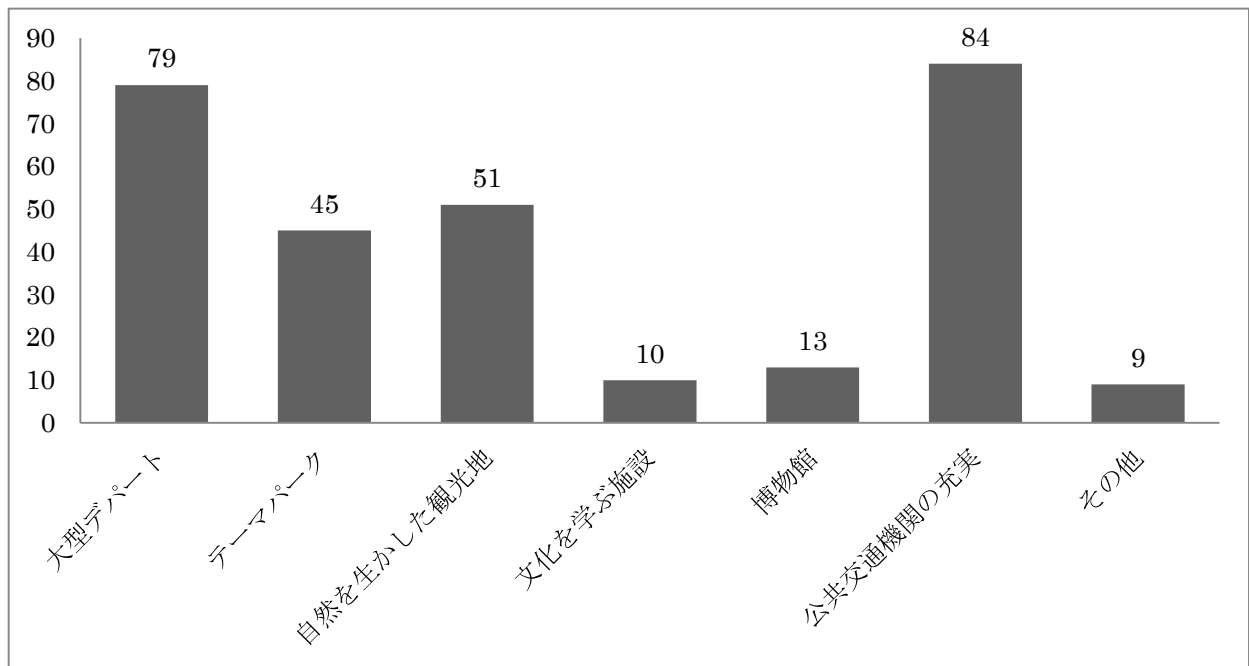
問6 青森県内で就職をしたいか



II 問1 行きたいところ (3つまで)



II 問2 青森県に期待するもの (複数回答可)



(2) フィールド調査

まず、キーワードを軸に観光地を挙げ、その中から、以下の観光地について実地調査した。

季節	キーワード	観光地
春	①花（桜、菜の花、ツツジ、たんぽぽなど） ②山菜	①弘前公園桜まつり ②合浦公園桜まつり ③東八甲田山つつじ祭り ④菜の花畑菜の花フェスティバル ⑤種差海岸
夏	①祭り ②海 ③花火	①浅虫花火大会 ②青森ねぶた祭り ③弘前ねぶた祭り ④五所川原立佞武多祭り ⑤黒石よされ ⑥八戸三社大祭 ⑦奥入瀬溪流 ⑧十二湖 ⑨田んぼアート
秋	①紅葉 ②もみじ、 ③コスモス ④食べ物（きのこ、柿、梨、さつまいもなど）	①中野紅葉山 ②八甲田山 ③弘前公園 ④奥入瀬溪流 ⑤恐山
冬	①雪 ②灯り ③ストーブ	①十和田湖冬物語 ②弘前城雪燈籠まつり ③青森冬まつり ④あおり灯りと紙のページェント ⑤津軽鉄道ストーブ列車 ⑥地吹雪体験 ⑦八戸えんぶり

I 弘前公園(弘前市)桜まつり



様々な種類の桜が色鮮やかで感動した。これぞ日本一の桜というのが一目瞭然であった。そのような桜まつりの中でも私たちは特に、池の中に広がる桜絨毯が魅力的に感じた。

- ・課題・要望 雨天時の対応、弘前駅から遠い
- ・求めるもの 交通手段の改良
- ・活用の仕方 人力車

II 青森ねぶた祭り

青森の夏と言ったらこの青森ねぶた祭りである。活気に満ち溢れ、臨場感とねぶたの存在感に圧倒された。一般客も跳人としてこの祭りに参加することができるのも良い点である。

- ・課題・要望 カラス族対策

※カラス族とは、正式な跳人の衣装ではなく、鳥のカラスのような衣装を纏い、ねぶたに参加し、祭りにそぐわない振る舞いをする集団のことである。

- ・求めるもの 安全性の確保
- ・活用の仕方 警備員の配置

III 奥入瀬溪流

奥入瀬歩道を歩くと緑の木々に包まれ、折々に表情を変える溪流を見ることができる。ところどころに見える滝の美しさには圧巻である。観光客の中には、溪流の景観を描いている人や、写真撮影をしている人がおり、その楽しみ方は多様であった。

- ・課題・要望 交通手段、PR 方法
- ・求めるもの 主要駅からのバス
- ・活用の仕方 本数を増やす

Ⅳ 中野紅葉山



中野紅葉山は、滝と紅葉のコラボレーションを満喫できる。川のせせらぎと紅葉の鮮やかな色彩を同時に、視覚と聴覚で楽しむことができる。また、夜にはライトアップもされ、新たな一面が見られる。

- ・課題・要望 記念品やお土産がほしい
- ・求めるもの 手軽なお土産販売店
- ・活用の仕方 ゆるキャラや名物の考案



↑ 黒石市内散策の様子（画像左下、右下）

Ⅴ あおもり灯りと紙のページェント

青森駅から近いということが最大の魅力である。和紙で作られた個性豊かな照明が並べられ、青森の寒い冬を温めてくれる。

- ・課題・要望 見るだけではなく、実際に体験したい
- ・求めるもの 創作体験
- ・活用の仕方 体験教室

3 課題

アンケート調査とフィールドワーク調査から、以下の3点が課題として抽出された。

① 目玉となる企画が少ない

春の弘前さくら祭りや、夏のねぶた祭り等、青森には全国的に有名なイベントがある。しかしその祭りの時期だけに、観光客が偏ってしまっている。春や夏だけではなく、秋や冬にも大きなイベントを作り、周知させていくことで、年中を通して青森を楽しんでもらう工夫が必要である。例えば、秋には紅葉を、冬には雪を活用したイベントなど、青森の自然を利用したものを増やしていく必要がある。また、今開かれているイベント等をPRし、そのイベントの規模を大きくしていくということも

活性化につながる可能性がある。

② 青森で実施されているイベント・観光地の認知が低い

実際にフィールドワークを行い、青森には自分たちが知らないイベントや観光地がある事に気が付いた。青森に住んでいる私たちが知らない事を、他の県に住んでいる方が知っているという可能性は低い。だからこそ、認知度を高めていく事が重要である。例えば、現在青森にある祭り、観光地を全てまとめ「イベント MAP」を作り、紙媒体やアプリを作成し多くの人に青森の祭りを知ってもらうというような方法が考えられる。

③ 交通の便が悪い

例え、様々なイベント・観光地の PR に成功したとしても、その場所に行く手段が圧倒的に少ない。また冬場は特に交通の便が悪く、主な移動手段は自動車になってしまうため、運転が出来ない人やまた遠くに住んでいる人にとっては行く手段がなくなってしまう。そのため、多くの観光地にいけるように、交通手段を増やしていく必要があると考える。しかし、交通手段を確保するためにはコストが多くかかる。そのため出来るだけ大勢の人に参加してもらう事が必要である。

例えば、青森の観光地をルート化したツアーを組むことを考えたい。最近は個人のツアー客が観光の主流であるが、それに個々別々に対応するのではなく、観光バスの個人利用等、一度に大勢の人に参加してもらう事により、個々人で訪れて来る観光客を対象としても、より多くの人に青森の魅力を知ってもらう事ができる。また、バスツアーの仕様を工夫すればコストの低下も図れると考えられる。

4 まとめ（提案）

調査とそこから抽出された課題をもとに考察し、私たちは青森の観光をより活性化させるための方法として、（１）「観光地のルート化」、（２）「新しいイベントの開発」、（３）「PR 方法」の３つのことを提案していきたい。

（１）観光地のルート化

青森県には、魅力的な観光地が沢山あるにも関わらず、なかなか周知されていないのが現状として挙げられる。そこで、有名なものだけでなく様々な観光地や特産品に触れてもらいたいと思い、有名な観光地とあまり知られていない観光地をセットにして、ルート化することを提案したい。

今回、私たちは季節ごとにルートを考えたが、その一例として、春と冬のルートを紹介したい。

I 春「花」というキーワードを軸としたルート

まず、弘南鉄道で津軽尾上へ行き、「猿賀公園」で鯉と桜を楽しむ。その後、「盛美園」に行き、アニメ映画「借りぐらしのアリエッティ」の世界観を味わう。そこから黒石市へ向かい、黒石駅前を散策した後、バスで「虹の湖公園」へ行き、桜とこいのぼりを観賞する。さらに「雷山」へ行くと、カタクリの花を見ることができる。その日は黒石の旅館に宿泊し、翌日は弘前へ移動する。弘前市のカフェでランチをとった後は、りんご花まつりや弘前公園の藤田記念庭園、弘前城植物園で春の植物を楽しむ。最後に弘前公園内のライトアップされた夜桜を満喫する。

II 冬「雪」というキーワードを軸としたルート

まず、八戸市の中心街へ行き、そこで「八戸えんぶり」を見る。そこから、「八食センター」へ向かい、新鮮な海鮮物を食べたり、お土産を買ったりする。そのあとは、三沢市にある「青森屋」で宿泊し、三沢市の特産品である「ほっき丼」を食べたり、温泉に入ったりして疲れを癒やす。次の日は、浅虫へ向かう。浅虫では、水族館や温泉があり、ゆったりとした時間を過ごすことができる。そこから、青森駅へ行き、駅前で開催されている「灯りと紙のページェント」や「青森雪まつり」に立ち寄ってみる。

(2) 新しいイベントの開発

アンケート調査を通し、自然や食べ物、温泉といった青森でしか味わえないものが、自分たちが思っていたよりも多くあるということに気づかされた。そこで、青森の強みを活かした新たなイベントの開発が、他県民に青森の魅力を知ってもらうために有効であると考え提案したい。

I ゲレンデや既存の観光地である三内丸山遺跡などにイルミネーションを飾る

冬のキーワードとして挙げた灯りや雪を用いたイベントとして提案したい。ゲレンデについては、ウィンタースポーツが盛んな青森で、スポーツと景色を同時に楽しんでもらおうということを狙いとした。街からも見上げることができ、新たな観光資源になると考えられる。三内丸山遺跡については、イルミネーションを飾ることで、一度訪れたことのある人でも、新鮮さを味わうことができると考えられる。

II 札幌雪祭りに匹敵する「雪祭り」を青森県で行う

青森市や弘前市など大雪が降る都市で、雪でキャラクターや青森県を象徴するオブジェを作り、プロジェクションマッピングも行う。それにより観光客の増大を図るというものである。

Ⅲ 他県の市町村と姉妹都市として連携し、一緒に盛り上げていく

例えば、「横浜」つながりで、青森県横浜町と神奈川県横浜市が提携し、横浜町で横浜中華街展のようなイベントを開催する。また、その他にも季節にかかわらず、黒石温泉郷や浅虫温泉郷などの温泉地をめぐる「美人になろうツアー」や、ジブリの舞台となった盛美園や白神山地をめぐる「ジブリツアー」を県で主催するなどを提案したい。

(3) PR方法

上記「(1) 観光地のルート化」でも述べたように、観光客を増やすためには、青森の観光地を他県の人々に知ってもらう必要がある。そこで、青森の観光資源をより知ってもらうために、次のようなPR方法や工夫を考えた。

- I 青森県のルートを簡単に検索できる地図アプリや口コミ投稿サイトを作成する。
- II それらを若者に最も身近な存在である SNS で拡散する。
- III 学生割引などの割引制度の整備を行うことによって、若者の観光における金銭面での不安を軽減する。
- IV 学生がボランティア活動や旅行をすることで単位がもらえるように、県と大学が連携を図る。

そのほかにも、県の認知度を上げるために、今以上に B 級グルメの加工品を作り全国に普及していくことや、テレビ番組でもっと青森を取り上げてもらうなども提案したい。

ここで提案した 3 つの方法が実現すれば、青森県の観光客の増加と、観光地の周知が図られる。それにより、青森の更なる発展と、今回の目的である人口減少の克服となることを期待したい。

5 おわりに

私たちは、青森県の観光という点に着目し、研究を進めてきた。この研究で、青森の良さはもちろんのこと、それに対する課題も見つけた。しかしそれを弱みとして見るのではなく、チャンスとして捉えることができると感じた。たとえば、青森県は豪雪地帯であるが、反対に雪を利用したイベントを企画することができる。このように、青森県は観光という面でまだまだ新たな可能性を秘めているのである。

こうして、観光という側面から発展させていくことで、たくさんの人たちが青森県の魅力に気が付き、私たちが構想している、雇用の増大、定住、人口減少克服につながっていくことが望まれる。

○ 調査研究に参加しての感想

今回の「学生発未来を変える挑戦」プロジェクトに参加することができ、自分たちの住む青森県について見直し、考える良い機会になった。私たちは、青森県の観光という視点で調査を進めたが、青森県には、私たちがあまり足を運ばないようなところにもたくさんの魅力のある観光地があったし、食べ物も美味しく、そして何より、そこに住む人たちの優しさや温かさに触れることができた。これは、実際にその場に足を運んだからこそ分かる魅力であり、これをもっと青森県民、他県民に広めていければいいなと感じた。私たちは、青森県内出身者をはじめとし、県外出身者も含めたグループであったが、それぞれが青森県について深く考えることができた。改めて県の魅力・強み・課題を知った。そしてこの調査を通して、これから住むであろう土地についても関心を持ち、その土地の良さを発見し、広めていくことが重要であるということを感じた。そうすることでその土地の知名度があがり、活性化していくと考えたからだ。

また、研究だけにとどまらず、他大学と合同で報告会を行うことにより、さまざまな意見を聞くことができ、もっと広い視野が備わったと思う。大学生らしいフットワークで活動しており、それぞれの研究がとても刺激的であった。同じ青森県でも活性化のためにこんなにもたくさんの方があるのだと驚いた。

約6か月間の活動を通し、自ら積極的に動き、考察していくことで、充実した研究をすることができたと感じる。この貴重な体験を将来の糧とし、今後の生活に生かしていきたい。

青森県立保健大学健康科学部 社会福祉学科 3 年
増山道康研究演習 Tourism Group

公立大学法人 青森県立保健大学 健康科学部
社会福祉学科 1,2,3 年生のみなさんへ

『青森の新しい観光資源開発』に関する
アンケートの回答協力について

私たちは、青森県が主催する『学生発未来を変える挑戦プロジェクト』に取り組んでおり、「新しい青森の観光資源開発～北海道新幹線開業を見据えた八戸－新青森を拠点とする観光圏域を考える（キーワードを軸にして）～」をテーマとして研究を行っています。この研究調査用データ収集のため、青森県の観光に関するアンケートを実施させていただくことといたしました。

つきましては大変恐縮ではございますが、配布したアンケート用紙にご回答いただきたくお願い申し上げます。

このアンケートから個人が特定されることはありません。また、集計結果のみを研究に利用し、アンケート票は研究終了後ただちに廃棄いたします。回答するかどうかは自由です。回答しないことによる不利益は生じません。また、記入によって得られた情報は研究以外に使用することはありません。

アンケートにご記入される上で質問やご意見等がございましたら、その場でお知らせください。速やかに対応させていただきます。

以上の趣旨をご理解いただき、ご協力よろしくお願いいたします。

なお、気になる点、ご不明な点などがございましたら、増山道康准教授研究室までご連絡ください。

公立大学法人 青森県立保健大学

健康科学部 社会福祉学科

准教授 増山道康研究演習 Tourism Group

三浦千奈 笹森亜由美 佐藤穂菜美 三瓶耀子

清水端朱音 杉山優 中嶋優衣

問 5—2 3 以外を選んだ人に質問です。なぜその項目を選んだのか理由を教えてください。

問 6 あなたは青森県で就職したいと思いますか。また、その理由を教えてください。

1. 思う
2. 思わない
3. どちらともいえない

Ⅱ. 次に青森の観光資源についての質問です。当てはまるものに○をつけてください。

問 1 あなたが知っている青森の観光名所・イベントで特に行きたいところに○をつけてください。

(3つまで)

- | | | |
|---------------------|-------------|------------|
| 1. ねぶた・ねぶた祭り | 2. 各地のさくら祭り | 3. 三社大祭 |
| 4. 三内丸山遺跡 | 5. 青森県立美術館 | 6. 浅虫水族館 |
| 7. 温泉（酸ヶ湯・不老ふ死温泉など） | 8. 十和田湖 | |
| 9. 奥入瀬溪流 | 10. スキー場 | 11. 弘前城 |
| 12. 八甲田山 | 13. 大間まぐろ祭り | 14. 田んぼアート |
| 15. 竜飛岬 | 16. 八食センター | 17. 蕪島 |
| 18. 種差海岸 | 19. 恐山 | 20. 白神山地 |
| 21. その他(| |) |

問2 あなたが青森に期待するものは何ですか。(複数回答可)

1. 大型デパート(買い物等をするところ)
2. テーマパーク
3. 自然を生かした観光地・イベント
4. 文化を学ぶ施設
5. 博物館(美術館、資料館等)
6. 公共交通機関の充実(電車の本数、終電の時間、運賃等)
7. その他()

ご協力ありがとうございました。